



コイルにまつわる基本事項

コイルとは何か、 どのように使われるか

1-1 コイルとインダクタは何が違うの？

私が勤めている会社(コイルの製造メーカ)では、電線を巻いてスプリング状(巻き線)にしたものを利用している部品をコイル(coil)と呼んでいます(図1)。そのなかで、「巻き線が1個だけのもの」を特にインダクタ(inductor)と称しています。ただし、「2個以上のインダクタを物理的に一体化した製品」の場合も、インダクタと呼んでいます。

イメージとしては、図2のように「コイルのなかにインダクタ、トランス、フィルタなどが存在する」という形になります。

コイルの業界としても、特別に決まりがあるわけではありませんが、国際規格(IEC)では、コイルではなく「磁性部品(inductive components)」、「トランス(transformers)」や「インダクタ」が使用されています。

参考までに、日本の規格のJIS C 5602「電子機器用受動部品用語」では、

コイル：一般的には、絶縁体の表面上に導体を巻いて作った自己インダクタンスをもつ部品

と記載されています。

もちろん、インダクタをコイルと称しても何の問題もないし、電子部品を扱っている人にならどちらの呼称を使っても通じます。ちなみに、「あなたの会社は？」と聞かれたら、私は「コイル・メーカです」と答えています！

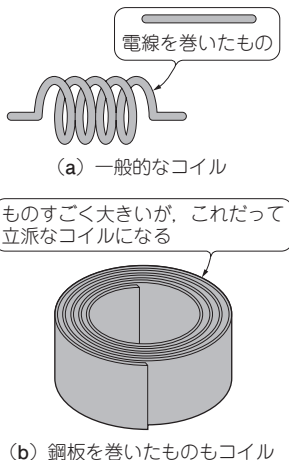


図1 コイルとは何か

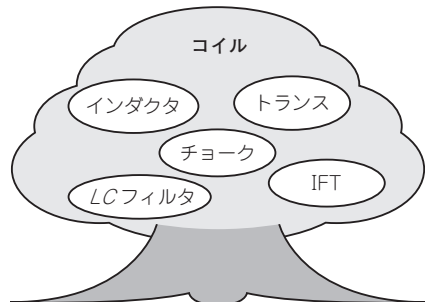


図2 コイルのイメージ

巻き線を使用した部品をまとめて「コイル」と呼んでいる